

ステージプログラム

8土 11:00
15:00

11:10 川添の神楽 浪江町

11:40 樋渡の三匹獅子舞 三春町

12:20 MJCアンサンブル 南相馬市

12:50 トモダチプロジェクト 南相馬市

13:20 会津坂下の早乙女踊り 会津坂下町

13:40 相馬福田の十二神楽 新地町

14:10 鹿島下町の子供手踊り 南相馬市

9日 10:00
15:00

10:10 大倉の神楽 飯館村

10:45 室原の神楽 浪江町

11:15 前沢の女宝財踊 双葉町

11:40 馬場の神楽・七芸 南相馬市

12:10 樋渡・牛渡の田植踊り 浪江町

13:00 請戸の田植踊り 浪江町

13:30 南津島の田植踊 浪江町

14:00 小宮の田植踊 飯館村

14:30 柳津の大神楽 柳津町

※都合により出演団体及び出演日時が変更になる場合があります。

ふるさとの祭り2022 ステージ

出演団体紹介

時代を超え、震災を乗り越え、人と地域をつないできた民俗芸能。
親から子へ、大人から子供へ、演舞と共に伝わる人や地域を想う心。
「ふるさと」への熱い想いと希望を胸に、14団体が熱演します！

10/8土 11:00~15:00
※終了時刻は変更になる場合があります。



5団体+特別出演2団体

樋渡の三匹獅子舞

ひわたりのさんびきしまい 樋渡の三匹獅子舞保存会



樋渡神社の祭りに奉納されてきた三匹獅子舞。かつては春と秋の2回であったが、明治30年ころから秋祭りだけになった。震災時コロナ禍でも「無病息災」を祈願し、この獅子舞を奉納した。令和3年には7年ぶりに小学生が踊り手に加わり、樋渡地区は小さな集落だが、若連9人で伝統を継承している。

相馬福田の十二神楽

そうまふくだのじゅうにかぐら 福田十二神楽保存会



特色は、舞も囃子もすべて子どもが演じる場所にある。幕末の慶応元年ごろに宮城県丸森町から伝えられた。丸森では大人が演じていたが、福田では少年たちに伝授された。この神楽は修験の芸能の面影を残す、県内でも類の少ない神楽であり、平成6年に県の重要無形民俗文化財に指定された。

特別出演

エムジェシー MJCアンサンブル

南相馬市

2009年6月結成。南相馬の古い酒蔵を復元した旅館館を拠点に活動中。東日本大震災、福島第一原発の影響でメンバーがバラバラになる中、自主練習を続け、『2011こどもコーラスフェスティバル』に出場。以来、被災地からの感謝と元気を届ける活動を続けている。被災地に未来の夢を与えてくれる子供たちのアンサンブルの歌声が響く。

トモダチプロジェクト

南相馬市

東日本大震災を機に誕生。歌やダンスを通じて人と人が繋がり合い、生きてゆく元気を伝え合うプロジェクト。毎週のレッスン、イベントステージや本公演、音楽や動画の配信など、様々な形でみんなを笑顔にできるような活動をしている。中心にあるのは「みんなのうた」。どんなに辛くても悲しくても、顔をあげて歌を歌って前に進んできたトモプロが、くじけぬ復興へ勇気を皆さんにプレゼント。

川添の神楽

かわぞえのかぐら 浪江町川添芸能保存会



明治40年ごろ、当時の樺葉郡川添村に伝わったとされている。毎年正月に悪魔祓いや豊年満作の祈願をしながら舞い込む獅子神楽で、川添地区の住民に受け継がれてきた。震災から11年経ち、川添の國玉神社が再建され、今年の7月、例大祭で「還宮祭」が執り行われ、12年ぶりに神社に奉納した。

会津坂下の早乙女踊り

あいづばんげのさおとめおどり 福島県立会津農林高等学校 早乙女踊り保存クラブ



「羽子板舞」、「棒舞」、「花笠舞」、「扇舞」の4種目で構成されて、毎年7月7日の粟村稲荷神社の「御田植祭」で五穀豊穡と商売繁盛を祈願して、町内5か所で開催されている。戦後途絶えていた「扇舞」を戦前に踊り手だった方の助言の下に復活させ、町の伝統文化継承のために活動している。

鹿島下町の子供手踊り

かしましよまのこどもおどり 下町子供手踊り保存会



鹿島御子神社や山八幡神社などで12年毎に行われる「お浜下り」に奉納する踊りとして伝承されてきた。曲目は「二返返し」、「相馬流れ山」などの相馬地方の民謡に限らず、「伊勢音頭」、「おぼこ」など全国各地の民謡もある。イベントや老人福祉施設、仮設住宅での披露など、活動の幅を広げている。

10/9日 10:00~15:00
※終了時刻は変更になる場合があります。



9団体

室原の神楽

むろはらのかぐら 室原郷土芸能保存会



この地方は「ヤマセ」でたびたび凶作に見舞われたことから、春は豊作を祈願して、秋は収穫の感謝のために神社などに奉納されてきた。四方固めに舞う「幕舞」、幣束を持つ「幣束舞」、鈴と幣束を持つ「鈴舞」、それに続き激しく舞う「怒り」の4種目で構成されている。2012年に震災後の活動を再開。

馬場の神楽・七芸

ばばのかぐら・しちげい 馬場民俗芸能保存会



獅子神楽に附属した七芸(余芸)で、笠(菅笠)踊りと傘(唐傘)踊りの2つがあり、「八木節」の唄に合わせて踊る。馬場地区では昭和30年代初めから踊り始めた。唐傘踊りは県内では数少ない踊り。平成28年以來活動を休止。今回の出演参加を機にメンバーを新体制にし、最初の披露となる。

請戸の田植踊り

うけのたうえおどり 請戸芸能保存会



江戸時代末期から続く民俗芸能。延喜式内社の「吾野(くさの)神社」の「安波祭」に海上安全・豊漁豊作を祈り奉納されてきた。その昔、凶作に見舞われたとき村人たちが神社に集まり踊りを奉納したところ豊作になったことから伝承されてきた。全国からの声で背中を押し、震災5か月後に活動を再開。

小宮の田植踊

こみやのたうえおどり 小宮民俗芸能保存会



約200年の伝統を持つ福島県指定重要無形民俗文化財。村内18の地区で継承されていた。なかでも小宮地区のものは華やかさが特徴。原発事故による全村避難のなかで、震災後の平成26年から活動を再開。イベントや村の文化祭、小宮地区稲荷神社還宮の際の奉納など、その灯を絶やさずに継承している。

大倉の神楽

おおぐらのかぐら 飯館村 大倉民俗芸能保存会



これは相馬藩で継承されてきた獅子神楽で、珍しい「太刀のみ」もある。かつては田植踊とともに悪魔祓いと豊作を祈願して行なわれていたが、各集落の若者の団結や郷土愛、さらには絆を高めて藩の基盤を強固にするためとあって、その思いは現代まで受け継がれている。

前沢の女宝財踊

まえさわのおんなほうさいおどり 前沢の女宝財踊り保存会



踊り手の姿が特徴。ばくも打ち、僧侶、お子抱き、盲目の琵琶法師、旅芸人などが登場する。今から680年ほど前の南北朝の争いの際、霊山の城から逃れた北畠氏の家臣12人が旅芸人などに姿を変え南相馬市鹿島区江津に落ち延びた。その後に踊りにしたものを、踊り手はすべて女性だけである。

樋渡・牛渡の田植踊り

ひわた・うしたのたうえおどり 樋渡・牛渡田植踊り保存会



八坂神社の祭りの宵祭りに踊っていた民俗芸能。東日本大震災により活動は中断。令和元年に八坂神社が再建され、落成式で久しぶりに踊りを披露した。今年も7月23日に八坂神社の例大祭で、神楽や盆踊とともに奉納した。早乙女と盆踊に分かれて相馬野馬追にうたわれる「相馬流れ山」で舞い込む。

南津島の田植踊

みなつしまのたうえおどり 南津島郷土芸術保存会



約200年前より伝わる「田植踊」と「神楽・七芸」で、旧正月に各家々をまわり悪魔祓いと五穀豊穡、無病息災を祈願して踊ってきた。元来、踊り手は男性だけであったが、現在は地区の住民が各地に避難しているため女性や若者も加えて活動が途絶えないようにしている。深い信仰に支えられた踊りである。

柳津の大神楽

やないづのたいかぐら 藤の和芸能保存会



会津地方には「春神楽」といって、獅子神楽が田植前に門付けをする風習があり、その典型が当団体である。長獅子と神楽七芸があり、七芸には「おかめ」「万歳」「鐘舞」、県内ではここだけの「皿まわし」「五階茶碗の立てもの」などの曲芸も伝えている。会津地方には江戸時代から神楽が伝えられている。